

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	ミッドランドスクエア管理組合 管理者 トヨタ不動産株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中村区名駅四丁目7番1号 ミッドランドスクエア16F
工場等の名称	ミッドランドスクエア
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅四丁目7番1号
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	事務所等
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月26日 ～ 令和6年10月24日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） ミッドランドスクエア 16階 トヨタ不動産株式会社
		ホームページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先			

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

基本方針

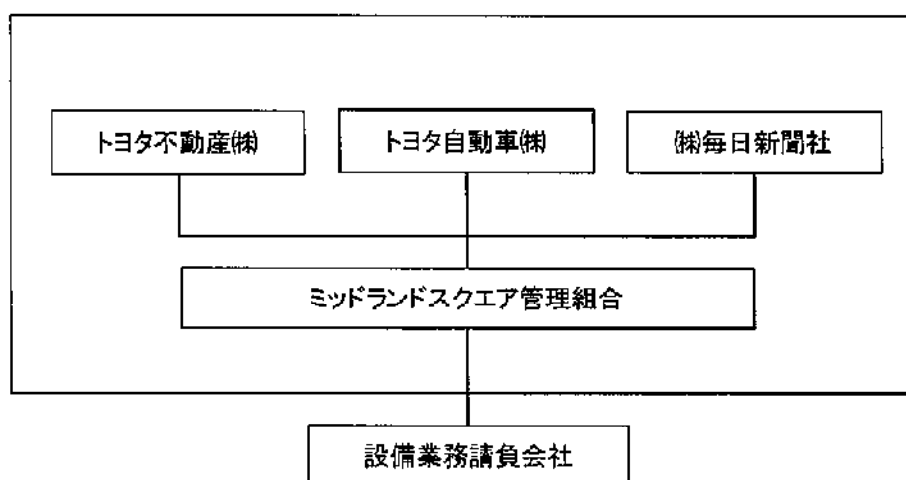
1. 当社は、国、地方公共団体の温暖化防止等環境施策に対して、一企業市民の立場から積極的かつ能動的に活動し、環境保全と持続可能な社会の実現に向けて努力を行っていきます。
2. 環境保全活動を、あらゆる領域の事業戦略に組み込まれる様に努め、高い環境意識と遵法精神を持ち、より高い独自の目標を設定し、その実現に努力し続けます。
3. 当社の持つ環境保全に対する知識、技術を、幅広く地域、社会、近隣企業とも共有し、環境都市や環境街づくりに貢献していきます。

取り組み

1. 低炭素社会の構築
 - 1) 省エネルギー、低炭素先進ビルの設計
 - 2) 省資源、長寿命設計
 - 3) 省エネルギー活動の推進
2. 循環型社会の構築
 - 1) 水の再利用促進
 - 2) 廃棄物削減、リサイクルの推進
3. 環境保全と自然共生社会の構築
 - 1) 有害物質の適正処理
 - 2) 自然保全活動の推進

(2) 地球温暖化対策の推進体制

ミッドランドスクエア管理体制



・ミッドランドスクエア共用部の設備管理を実施

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,234	t-CO ₂
(温室効果ガス除く炭素換算)	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,234	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目 標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	9,474	t-CO ₂	9,189	t-CO ₂	3,002	t-CO ₂	3,234	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	68.3	%	65.9	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目 標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2022年4度より、ミッドランドスクエアに供給される電力の100%がCO2フリーとなるメニューを中部電力ミライズ及びDHC名古屋と契約したことでCO2排出量が大幅に削減された。一方で、外気の影響により冷水使用量・蒸気使用量が増加し、昨年度と比較してCO2排出量が増加した。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の日標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源行動の実践(冷暖房項目)	・日射角・日射量データを元にブラインドを制御し、太陽光を間接的に取り入れながら、夏期の日射熱による冷房負荷の低減を図る	・ブラインド制御の実施を、各事務室 入居者に協力を呼びかける	事業者より各入居者へ積極的にブラインド自動制御を使用するよう協力のよびかけを実施。
省エネルギー・省資源行動の実践(冷暖房項目)	・ペリメーターにエアバリアファンを設置し、夏期は天井から、冬期は床から排気を行い、ペリメーターの熱負荷を取り除くことにより、空調負荷の低減を図る	・適正な運転状態を管理していく ・冬季におけるペリメーターからの冷房を抑制する	エアバリアファンの効果が低い方角のファン稼働を抑制し電力を低減。
省エネルギー・省資源行動の実践(照明・受変電他項目)	・日射角・日射量データを元にブラインドを制御し、太陽光を有効に取り入れ、照明をインバーター制御することにより、照明の電力使用量の削減を図る	・ブラインド制御の実施を、各事務室 入居者に協力を呼びかける	ブラインド自動制御実施事務所においては照度が明るすぎるエリアは照明セルコンにて照度低減し電力低減。
省エネルギー・省資源行動の実践(照明・受変電他項目)	・白熱灯や蛍光灯・ランプをLED器具・人感センサー内蔵器具等へ更新する ・昼休み残業時には不必要な照明を消し、必要な場合はスポット照明を採用	・LED器具への更新を、各事務室 入居者に協力を呼びかける	事業者より各入居者へ積極的にLED照明へ更新 昼休みの消灯するよう協力の呼びかけを実施。
廃棄物の排出抑制	・各入居者から排出される廃棄物を廃棄量単位で課金し、紙類等は料金をビルから入居者に支払うシステムを導入し、3Rの推進を図る	・入居者の廃棄物の分別を徹底を呼びかける	事業者より 各入居者へゴミの分別の一覧表を渡し協力を求めた。更に分別箇所にはゴミの種類別に写真を用いた分別表を掲示し分別を促した。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・両面コピー、裏紙利用等による紙使用量削減を呼びかけた。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・残業時間低減の呼びかけ、リモートワークの実施
